



2022年12月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

2022年7月27日

上場会社名 伊勢化学工業株式会社

上場取引所 東

コード番号 4107 URL <https://www.isechem.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役兼社長執行役員 (氏名) 平岡 正司

問合せ先責任者 (役職名) 取締役兼専務執行役員管理本部長 (氏名) 菅 秀章

TEL 03-3242-0520

四半期報告書提出予定日 2022年8月2日

配当支払開始予定日

2022年9月1日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2022年12月期第2四半期の連結業績(2022年1月1日～2022年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年12月期第2四半期	12,072	29.9	1,502	23.7	1,483	23.1	1,016	26.8
2021年12月期第2四半期	9,294	17.2	1,214	41.6	1,205	45.6	801	72.0

(注) 包括利益 2022年12月期第2四半期 1,304百万円 (42.5%) 2021年12月期第2四半期 915百万円 (72.9%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年12月期第2四半期	199.34	
2021年12月期第2四半期	157.17	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年12月期第2四半期	35,005	28,077	80.2
2021年12月期	33,415	27,130	81.2

(参考) 自己資本 2022年12月期第2四半期 28,077百万円 2021年12月期 27,130百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年12月期		50.00		70.00	120.00
2022年12月期		75.00			
2022年12月期(予想)				75.00	150.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

配当予想の修正につきましては、本日公表の「通期業績予想の修正及び剰余金の配当(中間配当)並びに配当予想の修正(増配)に関するお知らせ」をご参照ください。

3. 2022年12月期の連結業績予想(2022年1月1日～2022年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	25,000	22.8	3,200	18.1	3,150	17.1	2,100	18.4	411.92

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

連結業績予想の修正につきましては、本日公表の「通期業績予想の修正及び剰余金の配当(中間配当)並びに配当予想の修正(増配)に関するお知らせ」をご参照ください。

注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

詳細は、四半期決算短信(添付資料)7ページ「2.四半期連結財務諸表及び主な注記(3)四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

詳細は、四半期決算短信(添付資料)7ページ「2.四半期連結財務諸表及び主な注記(3)四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

2022年12月期2Q	5,135,135 株	2021年12月期	5,135,135 株
2022年12月期2Q	37,062 株	2021年12月期	36,951 株
2022年12月期2Q	5,098,113 株	2021年12月期2Q	5,098,821 株

期末自己株式数

期中平均株式数(四半期累計)

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想につきましては、現時点において入手可能な情報に基づいて算出しておりますが、需要動向の変化等多分に不確定な要素を含んでおります。従いまして、実際の業績等は今後の様々な要因により現時点での予想と乖離する可能性がありますのでご承知おきください。詳細につきましては、添付資料2ページ「1.当四半期決算に関する定性的情報(2)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	3
(1) 四半期連結貸借対照表	3
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
(四半期連結損益計算書)	
(第2四半期連結累計期間)	5
(四半期連結包括利益計算書)	
(第2四半期連結累計期間)	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	7
(会計方針の変更)	7
(追加情報)	7
(セグメント情報等)	8
(収益認識関係)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間(2022年1月1日～2022年6月30日)における当社グループをとり巻く環境は、世界経済が徐々に回復しつつあるものの、ウクライナ情勢の悪化、長期化に起因する資源、エネルギー価格の高騰、物価上昇圧力に対する各国における政策金利の引き上げ、中国のゼロコロナ政策継続によるサプライチェーンの混乱や成長鈍化により、世界経済の成長下振れ懸念が強まるなど、先行きが不透明な状況が継続しております。

新型コロナウイルスの感染拡大による当社グループの業績への影響につきましては、2020年12月期の後半より一部の用途向けヨウ素の需要に影響がりましたが、前連結会計年度の上半期の後半以降、需要は回復しました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は前年同期比27億7千7百万円(29.9%)増の120億7千2百万円、損益面では、営業利益は同2億8千7百万円(23.7%)増の15億2百万円となりました。また、経常利益は同2億7千8百万円(23.1%)増の14億8千3百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は同2億1千4百万円(26.8%)増の10億1千6百万円となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

[ヨウ素及び天然ガス事業]

ヨウ素及び天然ガス事業では、前述のとおり新型コロナウイルス感染拡大による一部用途向けヨウ素の需要への影響は無くなり、ヨウ素製品の販売数量が前年同期を上回るとともに堅調に推移したこと、またヨウ素の国際市況が引き続き堅調に推移したこと、加えて為替相場が前年同期よりも大幅な円安になったことにより、売上高は前年同期を上回りました。営業利益につきましても、上記要因により前年同期を上回りました。

この結果、売上高は前年同期比14億8千万円(20.3%)増の87億7千4百万円、営業利益は同2億3百万円(19.0%)増の12億7千2百万円となりました。

[金属化合物事業]

金属化合物事業では、主要製品である塩化ニッケルの販売数量が堅調に推移するとともに、金属相場が上昇したことにより、売上高は前年同期を上回りました。営業利益につきましても、上記要因により前年同期を上回りました。

この結果、売上高は前年同期比12億9千6百万円(64.8%)増の32億9千7百万円、営業利益は同8千3百万円(57.6%)増の2億2千9百万円となりました。

(2) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

足元の業績動向等を踏まえ、2022年2月3日付「2021年12月期 決算短信」で公表いたしました2022年12月期通期の連結業績予想を下記のとおり修正いたしました。

売上高につきましては、ヨウ素の国際市況が堅調に推移するとともに、為替相場が円安で推移していること、また、金属相場が上昇したこと等により、前回予想を上回る見込みとなりました。

営業利益、経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益につきましても、当初想定を上回る原燃材料価格の上昇等による減益要因はあるものの、上記売上高の増加要因により、前回予想を上回る見込みとなりました。

2022年12月期通期連結業績予想数値の修正(2022年1月1日～2022年12月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	21,000	2,400	2,350	1,600	313.84
今回修正予想(B)	25,000	3,200	3,150	2,100	411.92
増減額(B-A)	4,000	800	800	500	
増減率(%)	19.0	33.3	34.0	31.3	

なお、当該業績予想につきましては、現時点において入手可能な情報に基づいて算出しておりますが、需要動向の変化等多分に不確定な要素を含んでおります。従いまして、実際の業績等は今後の様々な要因により現時点での予想と乖離する可能性がありますのでご承知おきください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,276	2,514
売掛金	5,255	6,480
有価証券	4,000	4,000
商品及び製品	1,893	2,396
仕掛品	478	548
原材料及び貯蔵品	1,575	1,611
短期貸付金	2,794	1,495
その他	88	172
貸倒引当金	△1	△1
流動資産合計	18,360	19,218
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	4,485	4,846
機械装置及び運搬具(純額)	5,159	5,707
土地	1,846	1,849
建設仮勘定	2,161	1,940
その他(純額)	256	248
有形固定資産合計	13,910	14,591
無形固定資産		
その他	519	575
無形固定資産合計	519	575
投資その他の資産		
繰延税金資産	495	495
その他	128	124
投資その他の資産合計	624	619
固定資産合計	15,054	15,787
資産合計	33,415	35,005

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	2,246	2,419
短期借入金	600	600
未払金	917	906
未払法人税等	373	467
賞与引当金	145	143
役員賞与引当金	10	6
その他	323	655
流動負債合計	4,615	5,199
固定負債		
退職給付に係る負債	1,024	1,061
環境対策引当金	376	376
資産除去債務	246	268
その他	20	21
固定負債合計	1,668	1,728
負債合計	6,284	6,927
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,599	3,599
資本剰余金	3,931	3,931
利益剰余金	19,769	20,428
自己株式	△123	△123
株主資本合計	27,177	27,836
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	0	0
為替換算調整勘定	△54	231
退職給付に係る調整累計額	7	8
その他の包括利益累計額合計	△47	240
純資産合計	27,130	28,077
負債純資産合計	33,415	35,005

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)
売上高	9,294	12,072
売上原価	7,205	9,635
売上総利益	2,089	2,436
販売費及び一般管理費	874	934
営業利益	1,214	1,502
営業外収益		
受取利息	3	1
受取配当金	—	0
その他	0	0
営業外収益合計	3	2
営業外費用		
支払利息	0	0
為替差損	12	20
営業外費用合計	13	21
経常利益	1,205	1,483
特別利益		
固定資産売却益	—	1
特別利益合計	—	1
特別損失		
固定資産除却損	32	44
その他	0	—
特別損失合計	33	44
税金等調整前四半期純利益	1,172	1,440
法人税等	370	424
四半期純利益	801	1,016
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	801	1,016

(四半期連結包括利益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)
四半期純利益	801	1,016
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	96	286
退職給付に係る調整額	17	1
その他の包括利益合計	114	288
四半期包括利益	915	1,304
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	915	1,304
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(原価差異の繰延処理)

定期的な修繕が特定の四半期に行われるために発生する原価差異は、予定原価が年間を基礎に設定されており、原価計算期間末までに解消が見込まれるため、当該原価差異を流動負債として繰り延べております。

(税金費用の計算)

税金費用については、当第2四半期連結累計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。

なお、「収益認識に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第30号 2021年3月26日)第98項に定める代替的な取扱いを適用し、商品又は製品の国内の販売において、出荷時から当該商品又は製品の支配が顧客に移転される時までの期間が通常の間である場合には、出荷時に収益を認識しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。

この結果、当第2四半期連結累計期間の損益に与える影響はありません。また、利益剰余金の当期首残高への影響はありません。

また、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第2四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。これによる、四半期連結財務諸表への影響はありません。

(追加情報)

前連結会計年度の有価証券報告書の(追加情報)に記載した新型コロナウイルス感染拡大による影響に関する仮定について重要な変更はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自2021年1月1日至2021年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)
	ヨウ素及び 天然ガス事業	金属化合物 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	7,294	2,000	9,294	—	9,294
セグメント間の内部売上高又は 振替高	—	—	—	(—)	—
計	7,294	2,000	9,294	(—)	9,294
セグメント利益	1,069	145	1,214	—	1,214

(注) セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第2四半期連結累計期間(自2022年1月1日至2022年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)
	ヨウ素及び 天然ガス事業	金属化合物 事業	計		
売上高					
日本	4,217	3,106	7,323	—	7,323
アジア	1,978	191	2,170	—	2,170
北米	1,238	—	1,238	—	1,238
欧州	1,339	—	1,339	—	1,339
顧客との契約から生じる収益	8,774	3,297	12,072	—	12,072
その他の収益	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	8,774	3,297	12,072	—	12,072
セグメント間の内部売上高又は 振替高	—	—	—	(—)	—
計	8,774	3,297	12,072	(—)	12,072
セグメント利益	1,272	229	1,502	—	1,502

(注) セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

(会計方針の変更)に記載のとおり、第1四半期連結会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理の方法を変更したため、報告セグメントの利益又は損失の算定方法を同様に變更しております。なお、当該変更による影響はありません。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、(セグメント情報等)に記載のとおりであります。